

平成 29 年度 新潟県小中学校 P T A 連合会 第 3 回理事会 議事録

日 時：平成 30 年 1 月 20 日（土）

10：00～11：20

会 場：新潟県商工会館 7 階 大会議室

参加者：役員 6 名、監事 1 名、理事 25 名

1 開 会

事務局

2 会長あいさつ

平石会長

皆さん、明けましておめでとうございます。本年もよろしく申し上げます。いよいよ平成 30 年、日 P 新潟大会本番の年となりました。ずっと新潟大会の会議等をしてきましたが、あと 8 か月となり、あつという間だと感じております。1 月に入ってから大雪が降ったりして、ご苦労された方も多いと思います。大会に向けて、皆様方の雪国の粘り強さを見せていただき、大会の機運醸成をしていきたいと考えています。

県 P 連では昨年から新潟大会以外にも、「いじめの問題」にスポットを当てて取り組んできました。今年も「いじめの問題」を皆さんと共に考え、また各郡市 P 連の皆様と単 P の皆様とも共に、「いじめの問題」について深く考えていただければと思っています。

さらに、いじめの問題だけではなく、教職員の過労の問題、貧困家庭の問題等々、教育について大きな問題が山積しております。P T A の方々の力を合わせて、ぜひ家庭・学校・地域の連携を深め、新潟の教育を全国に発信する機会もありますので、我々の取組を全国の皆さんに発信していく年にしたいと思っております。よろしく願いいたします。

今日は理事会以降も会議が続き、長丁場になりますが、よろしく願いいたします。

3 協議事項

議長 岩淵副会長

(1) 日 P 新潟大会について … 別冊資料「臨時実行委員会」参照 事務局

○ 第 9 回実行委員会を 3 月 17 日に開催（3 月 10 日より変更）

○ 資料 2

・ 広告協賛金募集活動は、注意事項（資料 2 の 2 ページ目 枠内の太字の部分）を再度確認して徹底し、注意して行ってほしい。

・ 日 P 担当の広告のページと大会実行委員会担当の広告のページが、はっきり分かれている。間違えないように徹底を図りたい。

○ 資料 3

7 開催日・日程等

・ 8 月 23 日 運営打合せ・歓迎レセプション … 変更部分は、太字で記載。

11 分科会領域の内容

・ テーマ・研究課題 基調講演者（予定）… 変更部分は、太字で記載。

12 記念講演候補者

・ 高橋 克実 氏（新潟県三条市出身）

○ 資料 13 広告・協賛について、

1 渉外担当者の方へのお願い

・分科会名と担当者名を記入してから、依頼先に用紙を渡していただきたい。

2 広告・協賛の依頼先に必ずお願いしていただきたいこと

・振込前に「様式3 広告・協賛申込書」「様式4 確認書」の2枚を送付いただきたい。

・広告・協賛金の振込みの際は、必ず申込書記載の名称で振込みをお願いしたい。

○ 資料 14 参照

・1月17日の日P理事会での指導により、参加者数を関ブロ外2,500人から2,000人に減らさなくてはならない。関東ブロック500人増の内、県P連150人・新潟市P連100人で計250人の増員をお願いしたい。郡市P連ごとの参加者数が、会員数の1.4%から1.55%に変更となり、太字の人数分の会費の納入をお願いすることになる。

・分科会への申込みが偏ることが予想される。申込みを締め切ってみないと分からないが、過去の状況から、宿泊地に近い分科会や、有名な講師に集中する傾向があるようだ。

・長岡・燕三条・新潟に宿泊地が集中すると思われる。分科会希望の優先順位は、第1に関ブロ外の方、第2に関ブロ県外の方となり、新潟県内の方は空いた分科会に参加していただく。分科会の担当郡市もあるが、スタッフだけを残して他に行ってもらってもいいかも知れない。

・佐渡の方は、天候によっては佐渡へ渡れないかもしれないので、佐渡市P連で多めに動員をかけていただきたい。新潟市P連からも佐渡に行っていただくということで、太字になっている。

==質疑なし==

(2) 30年度 事業計画と日程

事務局

① 「30年度会議日程」について … 最終カラーページ 参照

・関係する会議を確認していただき、予定を空けておいていただきたい。

・太字はほぼ決まっている会議であり、細い明朝体のところは、29年度の会議日程から想定して入れてあり、決定ではない。

・8月23日、24日、25日の全国大会は、皆さんご参加をお願いしたい。

・その日までは、実行委員会等会議が多くなっているが、他の会議の計画を立てる時に重ならないよう、お願いしたい。

==質疑なし==

② 「広報紙コンクール」について

榎本広報委員長

・H30は「広報紙セミナー」は開催しないが、広報紙コンクールは開催する。

・2月15日に広報紙発行。応募方法・締切、日P「優秀広報紙作品集」を掲載予定。

事務局：広報紙コンクールの申込締切は、4月5日必着。遅れないようお願いしたい。

審査について、第1次審査は4月7日（土）に29年度の広報委員が担当。第2次審査は5月6日（日）に新潟日报社、県P連会長・副会長・広報委員長・事務局長で担当するので、その日を空けておいていただきたい。

今回の広報紙に載せる「優秀広報紙作品集」のレイアウト等、少しまねただけでも違うと思うので、参考にさせていただきたい。

==質疑なし==

※ H30 は日P新潟大会が「県P研究大会」を兼ねる。

- ・例年県P表彰を県P研究大会で行っていたが、30年度は全国大会等を兼ねているので、全国大会では表彰できない。29年度の総会において、30年度は総会で表彰することを承認済み。
- ・準備の関係で、12月11日に県P表彰の推薦依頼をしており、申請期限が1次締切3月30日と早まっている。郡市P連の事務局長が自薦しづらい方もいるようなので、2次締切4月26日もある。
- ・30年度は、日P全国大会と関ブロ大会を兼ねるため、日P新潟大会の各分科会で実践発表を行う予定の単位PTAを優先的に推薦してほしい。団体表彰の中から、次年度の関ブロ発表をお願いしている。今年度団体表彰を受けた刈羽中学校と外ヶ輪小学校では、31年度に外ヶ輪小学校から発表してもらう予定となっている。
- ・表彰規定の申し合わせ事項①があるが、30年度に実践発表校が多くなり、推薦数が表彰数を超える場合は、事前に連絡いただければ、役員会で検討する。

==質疑なし==

- (3) 30年度 県P連役員選考について 事務局
- ・日P大会及び関ブロ大会を開催するので、4年まで任期を延長できる。29年度の役員の皆さんが30年度も役員になることが可能であるが、中嶋副会長がお子さんの卒業により、顧問となる。
 - ・3月の理事会で、30年度役員選考委員として、上越地区1名・中越地区2名・下越地区2名を選出していただき、5月6日に役員選考委員会を開催する。

==質疑なし==

- (4) 30年 県P安全互助会の事業と助成について 事務局
- ① 「総合補償制度」の推進と事務手数料の配分（オレンジ色の封筒 参照）
- 1月9日 新小学生1年用のみ案内送付 → 入学説明会で必ず配布
2月末 新小学2年生～中学3年生（現小学1年～中学2年）案内送付 → 即配布
29年度加入者の自宅へ継続確認書発送
- ◎ 1次申込締切 3月20日
（4月1日補償開始、加入者1万人以上でH31年度の割引率51%を維持）

- ・各郡市P連の事務局にメールにて、入学説明会での配布依頼の配信をしている。
- ・保険内容については、前年度の事故率等を計算し、毎年微妙に変わっている。今年は個人賠償責任の件数が多くなってきていることから、個人賠償補償を上げ、死亡補償の対象となるお子さんが少ないので、死亡補償を下げています。

- ・在校生については、例年4月に配布となっていたが、今年度は2月末に届き次第、すぐに配布。今年は3月中に申込んでいただきたいので、早く配布した。3月中に申込みをすることで、掛金はまだ払ってなくても、4月1日から春休み中の事故等も補償される。
- ・4月1日に1万人の加入者がいないと、31年度は最高水準の51%割引率ではなくなることから、早めに配り、早く加入していただきたいので、1次申込締切を前年度より遅くした。
- ・学校の単位PTAでまとめて入り、PTA活動の時だけ補償される「PTA活動補償制度」と混乱してしまいがちだが、この「総合補償制度」は任意保険であり、24時間の補償があり、加害者となってしまった時でも個人賠償補償が充実していることをPRしていただきたい。

<別紙資料参照>

- ・保険掛金総額の5%が事務手数料として、各郡市P連に還付されることになっている。
- ・日P新潟大会の大会参加費を払わなくてはいけないので、11月まで待たずに早めに事務手数料として、29年度⑦の60% (⑩) を7月に振り込む予定である。予算作成時の参考にしてほしい。
- ・県P互助会から、日P新潟大会の参加者1人あたり1,000円を参加者数に応じて助成していただく予定になっている。それを各郡市P連の参加者数に応じて、事務手数料と一緒に7月に振り込む予定にしている。
- ・事務手数料は8月末まで集計し、⑩の金額より多い場合、11月に差額を振り込む予定である。

==質疑なし==

(5) その他 ==なし==

4 報告事項

(1) 各委員会報告

○ 教育問題

安達委員長

11月11日の合同研修会を皆様のご協力もあり、無事達成することができました。ありがとうございました。実際に動いてみると、もう少し細かく決めておくべきだったし、深く考えておくべきだったと、多々ありましたので、本番では、これでもかというくらいに細かく確認をしあっていたらいいと思います。講演会では、子どもとの関わりや、行政・地域で子どもを見守る等いろいろお話がありました。

いじめの問題については、まだまだ課題が多いです。実際近隣の小中学校では、「いじめではない。いじりだ。」ということで、なかなかいじめの問題とは向き合えず、先生方も「どうしようもないね。」という一言で終わってしまう現実もあるようです。子どもに聞いても「あれは、いじめとは言わない。あれは、いじりだった。」と返ってきます。この課題は、ずっと追いかけていかなくてはならないと思いますので、来年度も引続き、県P連教育問題委員会としてやっていくべきことと考えます。

○ 広報

榎本委員長

今年度当委員会では、昨年度よりも更に紙面を多くしました。写真や広報紙コンクール入賞作品を多く掲載し、三行詩コンクール入選作品、国内研修の様子や感想を新たに掲載しました。新潟県P連の活動をより深く、より多くの皆様に知っていただくために、見やすい、分かりやすい紙面作りをすることを目標にしてきました。

9月の広報紙には、来年度開催される日P全国研究大会新潟大会のPRとして、平石県P連会長と田中新潟市P連会長のインタビューを載せました。2月号には組織検討委員会と教育問題委員会の両委員長の対談等も載せる予定です。生の声を会員の皆様に届けられるような工夫を凝らし、新たな試みにチャレンジさせていただきました。9月の発行後、保護者の方にも県P連の活動が良く分かった等の声もいただきました。

最後に、原稿依頼に快く受けてくださいました皆様に感謝申し上げます。

○ 組織検討

教育問題委員会と合同開催の研修会のまとめをやっており、3月の理事会で発表となる。

(2) 日P「国内研修事業」参加者決定（男女各1名）

事務局

事務局：参加者1名について、食事の関係で、日Pに参加可能かどうかの問い合わせをしている。

アレルギーやいろんな環境の子どもがいることから、県P連ではあえてセーブせずに、日Pに決定を委ねた。参加できるように調整し、県P広報紙等で参加報告してもらう。

五十嵐理事：国内研修事業の申込者数はどれくらいか。

事務局：今年度男子11名、女子15名。締切を過ぎてから1名の申込みがあった。

ここ数年、沖縄での研修となっており、ダイビング等があるので泳力等を中心に選考させてもらった。

(3) 外部会議等参加 … 「会務報告」参照

事務局：10月以降の会議を記載しており、紙面を持って報告とさせていただきます。

五十嵐理事：運動部活動の在り方検討委員会について、どのような話があり、どういう方向に向かっているのか説明いただきたい。

板倉副会長：県庁で開催され、中学校・高校の校長会、中体連、県の行政の方たちで、部活動の負担が…という話で、文化部の方は入っていなかった。流れとして、部活動が先生方にとって負担であり、やめていった方がいいのではという感じであった。

全ての先生にとって部活が負担なのか、必ずしもそうではないのではないか。中には専門外で大変な人もいるかも知れないが、多くの先生は部活が必要だと思っているかもしれないし、部活が生きがいである先生もいると思う。部活動をやりたいと思っている子どもたちもいっぱいいると思う、という意見を述べた。

国からガイドラインが出ているが、行政も部活を縮小しようというのではなく、新潟県として、今後どういう方向でどうやっていったらよいのかという意見を集めている段階である。見附市の取組や、村上市ではNPO法人があり、社会教育との関連で指導者のいないところに、指導者を紹介していることが話題に上がった。部活を学校から切り離していくことも話題に上がったが、今現在実践しているところはないという状況である。

会長：26日の会議について、「新潟県運動部活動ライフライン」を作成中であり、はっきりとしたガイドラインを作り、協議をしている。部活動は基本的に1日2時間、年間の休みが何日等、それらを決議した後に学校に配布するという方向性が出ている。

五十嵐理事（中学校長会）：中学校長会と保護者の立場は違うと思う。保護者の立場を全面に出しながら、検討委員会で意見を述べてほしい。中学校長会としての意見もあるので、保護者の立場としての意見を力強く述べてほしい。子どもたちにとって、どういうスタイルが一番良いのかを検討していただければと思っている。

今、国のガイドラインが出ており、それは文化部も吹奏楽部も含めたガイドラインになっている。それと県との整合性、文科省は全て義務教育段階でのガイドラインになっている。検討委員会は、県の保健体育課が仕切っているので、高等学校と義務教育を同じ土俵で検討している。国とは違って新潟県の独自性なのか、難しいところがあると思う。中学校の保護者の立場で、子どもたちにとっての将来を見据えて、こういう形の部活動の在り方がふさわしいというあたりをご発言いただき、良い方向に導いていただきたいと思います。

会長：教職員の労働環境について、マスコミ等々で過労死や働き過ぎではないかといったことが頭にあって、部活動の在り方検討委員会がなされている。保護者としての部分と教職員の立場で、なかなか難しい状況であると感じている。

よく話が出るのは、自分がやってきたスポーツがそのまま部活動になれば熱心に教えるし、部活動に時間を取られても嫌だとは思わない教職員がいるけれども、全く違う野球をやってきたのに新体操や合唱の顧問をやるように言われた場合に、部活動に対するモチベーションが上がらなくて、休日に時間を取られるので、部活に対してネガティブな考えを持っている教職員もおられるという話を聞きながら、難しい状況だと個人的に感じている。

事務局：教員の過重労働を何とかするための会議か。

会長：そういう観点がある。我が子もスポーツをさせているが、先生方にスポーツの部活をどんどんやっていただきたいという思いはあるけれども、過重労働になっていて、休みになれば大会があったり1日練習があったり、なかなか先生方も休みが取れない。平日は夜9時10時まで学校の灯りがついていて、仕事をされている状況の中で、どうなのかと思う。

もう少し、学校の統廃合や学校間を超えた部活のやり方等、大きな観点で変えていかないと、たとえガイドラインを出しても教職員の労働は変わらないのではないかと感じ、難しいと感じながら会議に出ている。

事務局：中学生の場合は、どこまでも上を目指す部分と、生徒指導上、部活をした方がお互いに良いという場合もある。今は教職員の立場で考えているようだが、部活動も強くなればなるほど、ユニホーム・遠征費など経費がかかり、「〇〇部はお金がかかるから、子どもは入りたくないけど親がダメ」というように、部活動も2極化が進んでいるのも問題だと思っている。

皆が楽しむスポーツは、学校の施設を使用してやるのと、地域のどこかに拠点があり、専門指導者がいて、社会のサポートがありつつ勝利を目指してどこまでも頑張りますという人たちとを分けていかななくてはならないのではと考える。子どもたちの送迎や保護者の経費負担の問題、大会に参加したくても引率教員がいないために参加できないので、とりあえず他の部活動に入っているというお子さんもいる。今度は教員でなくとも大会に引率できることになるが、生徒管理は大丈夫かという思いもある。ぜひ代表として、意見をよろしくお願いします。

5 その他

- 日P「三行詩ファミリーカレンダー」 800円 ※ 3月のカレンダー 新潟県作品
- 日P「今すぐ！ 家庭でできるいじめ対策ハンドブック」 108円 ※ いろんな研修に
- 2月3日開催「子どもの人権 いじめの現状と対策を探る ～子どもを救うために～」
講師 菅野朋子氏 会場：燕中央公民館 県教委からの勧めもあり、参加してほしい。

6 監事講評

石田監事

ご協議、大変お疲れ様でございました。日P新潟大会がいよいよ今年8月に開催されます。午後から実行委員会が開催されるということですので、内容は割愛させていただきます。

「総合補償制度」の案内が、今年はずでに新小学1年生に配布されているということです。できれば、各単位PTAの会長等が説明できるようにしていただければ良いと思う。

昨年12月に女子大生が自転車を運転中しながらスマホを操作し、女性を轢いて死亡させるということがありました。また、私の中学1年生の子どもが、授業中にサッカーボールを蹴られ、眼鏡が飛んで壊れたという状況で、その夜親子さんが謝りに来られました。その時に、弁償をさせてくださいという話になったので、「総合補償制度」に入っていますかと話をしたら、入っておらず、知らなかったということでしたので勧めておきました。

加害者も被害者も「総合補償制度」がパッと頭に浮かぶレベルまでいけばいいのかなと思っておりますので、ぜひ加入の方を頑張っていたきたいと思います。

今日は午後からも会議が続き、長丁場となりますが、頑張っていたきたいと思います。

7 閉会のあいさつ

齊藤副会長

皆様、お疲れ様でした。全国ニュースで、新潟市は大雪ですごいことになっていると思いがら、早く出てきたのですが、全く雪がなく、意外でした。今日は新年3回目の土曜日で、8月までアツという間に過ぎてしまうであろうと思います。日Pの大会もありますし、皆さん残る方も大勢いらっしゃると思いますので、8月まで体を壊さないようにしていただきたいと思います。皆さん今日は長丁場になりますので、ゆっくり昼食を取っていただき、午後につないでください。